

一房のぶどう



第18号

平成22年3月1日 編集・発行／あきる野市教育委員会
〒197-0814 あきる野市二宮350 ☎042(558)1111(代)



ソフトボールリー19日本代表に選ばれ、アジア大会での優勝に、フル出場で大活躍の原野愛美さん

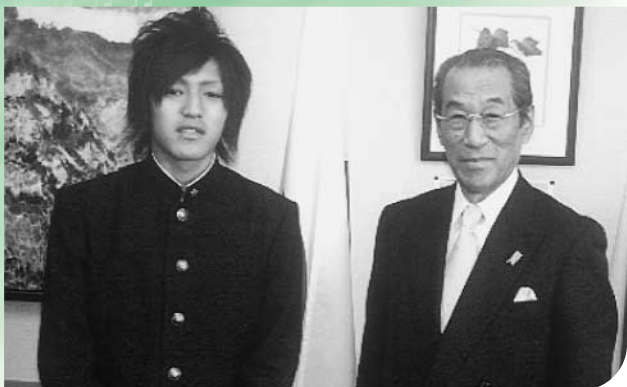


バンクーバー・パラリンピックに出場の森井大輝さん。直前のワールドカップで優勝し、前回のトリノの銀メダル以上の期待が高まります。

世界にはばたけ、あきる野から!



平成22年成人式で、842人の新成人の代表として、未来への誓いを述べた武藤生磨さん



第88回全国高校サッカー選手権大会で初出場優勝した、山梨学院高校のFWで活躍の伊東拓弥さん

様々な舞台で活躍できる次代を担う人材の育成を目指します

昨今の教育環境は、深刻な経済の停滞、少子化に伴う児童・生徒の減少、家庭の教育力低下、情報化・国際化の進展、子どもたちの学意・モラルの減退など様変わりしています。しかし、教育は未来への先行投資といわれ、いつでも、どこでも、誰でも等しく良質な教育を受けられなければならない。

あきる野市教育委員会は、「人が育ち、人が輝くあきる野の教育」のスローガンのもと、「おとなが手本のあきる野市」をモットーに掲げ、その時々多くの教育課題に果敢に挑み、教育の充実、質的向上を図って参りました。特別支援学級の設置率の向上、不登校児出現率の低減と復帰率の向上など、各施策の成果を着実に上げています。国や都、市指定の各種の授業研究においても、各学校が顕著な実績を残しています。地域の方々の見守りや学校、家庭の努力により、中学生が身につけたきちんとした服装、凛とした態度、礼儀正しい挨拶は実に見事で、称賛に値します。これらはまさに「あきる野市の教育力」のたわわな実り、成果の一端といえます。

平成22年度においても、新学習指導要領の理念を先取りしながら、「特別支援教育の推進」、「いじめ不登校ゼロへの挑戦」、「学力向上対策強化」、「地域社会の教育力活用強化」など11項目の重点施策を展開してまいります。今後とも家庭、学校、地域、行政が緊密に連携を取り、教育施策の充実に努め、国内外の様々な舞台で活躍できる確かな学力、豊かな心、健全な身体を備えた個性的でたくましい人材の育成を目指す所存であります。

教育委員長 溝口 勲 夫

てくてくあきる野
むかし発見!
第14話
「養沢川周辺を歩く」
「落合から軍道へ」

武蔵五日市駅から上養沢行きバスに乗り、「落合橋」で降ります。今回は、養沢川周辺をてくてく歩いてみたいと思います。バス停から数10m進むと、右手に大戸里神社の石柱が見えます。鳥居をくぐり、急な石段を登るとひっそりとした境内にたどりつきます。境内脇に2基の庚申塔があります。その1基は、今から約300年前(正徳元年)に立てられたもので、絵柄も非常にユニークなものです。



庚申塔

神社北側から都道に下りて左側の歩道を進むと、徳雲院が道路左手に見えてきます。今年の1月に行われた「武蔵五日市七福神めぐり」で寿老人が祀られている寺として多くの参拝客が訪れました。周辺では梅の花が



三ヶ島葎子の歌碑

咲き乱れ、訪れる人を楽しませてくれます。境内の脇には、昨年建てられた三ヶ島葎子の歌碑があります。「葎組む木の音牙えて水ませるあさけのたにに鶯の鳴く」の歌が刻まれています。目を閉じて耳を澄ますと、

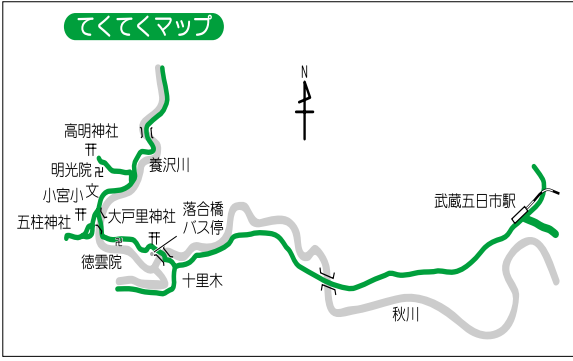
川のせせらぎの音とともに情景が目につかぶようです。彼女は明治41年から大正3年の間、このお寺の近くの家で間借りして自炊生活をしていました。ここから小宮尋常高等小学校(現在の小宮小学校)へ教員として通っていました。彼女は教員とは別に、歌人としての一面を持っていました。新詩社に入り、与謝野晶子の指導を受けていました。今から96年前の大正3年3月、約6年間を過ごした小宮村の地を惜しまれながら去りました。その後、本格的に歌人としての人生が始まりました。彼女はこの地を去って13年後の昭和2年3月26日、病気のため亡くなりました。「三ヶ島葎子日記」には、当時の養沢川周辺の自然や文化・生活等が克



五柱神社のスギ

明に描かれています。図書館で日記を読んでからてくてく歩くといいそう楽しいでしょう。都道に戻り、道なりに緩いカーブを進むと養沢川が見えてきます。橋を渡ってすぐに左に曲り、坂道を進むと二股に分かれます。ここを右へ進み、さらにまた右の方へ細い道を進んでいきます。ここから見上げた先の森の中に、五柱神社があります。小さな社に脇に非常に大きな杉の木が聳え立っています。市指定天然記念物の「五柱神社のスギ」です。その大きな姿は圧巻です。

神社を後に、もと来た道をたどって都道に戻ります。左に曲ってしばらく進むと、小宮小学校が見えてきます。右下の写真は、三ヶ島葎子がこの地を離れる直前の大正3年2月25日に校舎の前で撮影されたものです。前列向かって左から3番目が彼女です。写真の校舎は、当時小宮会館北側に建っていました。小学校を横に見て、養沢川のせせらぎの音を聴きながら先へ



三ヶ島葎子(前列左から3番目)

進んでいきます。左にカーブした先で、都道から左手に別れる道があり、これを道なりに左方向へ進み、急坂を登っていくと左手に明光院があり、少し進むと高明神社があります。明光院からの眺望は、急坂を登ってきた疲れを吹き飛ばしてくれるほどの素晴らしいものです。

おとなが手本のあきる野市 推進事業

第一回 あいさつ標語 カルタ大会を開催

正月の9日、ファインプラザで「あいさつ標語カルタ大会」が行われました。この大会は、「おとなが手本のあきる野市」推進事業の一環で、「おとなから率先してあいさつをすることにより、子どもに良い影響を及ぼし、規則正しい生活習慣や社会性、規範意識を高めることに繋がる」ことを目指して、平成20年度に、あいさつ標語を募集し、応募総数1,399点の中から選ばれた46点のあいさつ標語カルタを使ったカルタ取り大会です。大会を通して、大人も子どもも改めて「あいさつの大切さ」を認識しました。



日本の伝統的遊びを楽しんだ